

第1章 「かもす」産業・経済



かもす 産業・経済

にぎわいや潤いが「かもし」出されるまちづくり

日本の伝統でもあり、高島市の豊富な水環境や湿潤な気候が育んだと言える発酵食文化。

産業・経済分野におけるまちづくりは、熟成により旨味が増す「発酵」に例えました。

高島市の魅力を活かして、地域経済に賑わいや潤いを醸し出すまちづくりに取り組みます。

[施策体系]

施策項目 1 雇用を確保するとともに担い手を育成します		P.1-4
方針 1 企業支援や産業連携を推進し雇用を確保します	P.1-6	施策① 基盤整備の支援による企業経営安定化 施策② 産業連携等による地域経済の活性化 施策③ 創業支援制度の構築による創業の推進 施策④ 企業誘致による新規雇用の確保
方針 2 農業の担い手を育成し農地の維持に努めます	P.1-8	施策① 農業用施設の維持管理による農地の保全 施策② 農地の多面的な機能の維持 施策③ 農地集積による経営の安定化 施策④ 就農相談等による新規就農者の育成
方針 3 林業・水産業・畜産業の担い手を育成します	P.1-10	施策① 情報集積および業種連携による林業振興 施策② 水産業の基盤整備による経営の安定化 施策③ 耕種農家との連携による畜産振興
施策項目 2 高島ブランドを育成・発信します		P.1-12
方針 1 地場産業の魅力をさらに高めます	P.1-14	施策① 新商品開発等による地場産業の振興 施策② 国内・海外への進出支援による販路拡大
方針 2 自然の恵みの魅力をさらに高めます	P.1-16	施策① 生産力向上による農産物の生産・販路拡大 施策② 新規特産品の開発による林産品の魅力向上 施策③ 水産品の魅力化による食材利用の推進
方針 3 「発酵」を活かしたオリジナルブランドを育成します	P.1-18	施策① 発酵研究の推進による魅力向上 施策② 発酵商品開発による農畜産品の生産拡大
施策項目 3 観光で国内・海外に「高島」を伝えます		P.1-20
方針 1 豊かな自然や恵みを活かした観光を推進します	P.1-22	施策① 観光プログラムの充実による観光客の増加 施策② 周遊性の向上による滞在時間の延伸 施策③ 自然と食を活かした観光の魅力向上
方針 2 高島の魅力を国内・海外に発信します	P.1-24	施策① 情報発信の強化による集客力の向上 施策② 海外向けの情報発信による観光客の誘致 施策③ 国際理解の推進による受け入れ体制の整備 施策④ スポーツイベントによる観光と地域振興

基本構想

産業・経済

子育て・教育

健康・福祉

暮らし・文化

生活基盤

行政経営

施策項目

1

雇用を確保するとともに担い手を育成します

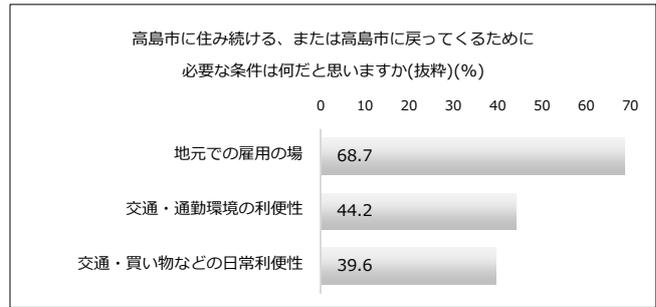
◆ 基本的な考え方

第1次高島市総合計画においては、自然共生型の産業づくりをテーマに産業振興に取り組んできました。しかしながら、10年前と比べて市内の事業所数やそこで働く従業員数は減少するとともに、若年層の転出超過に改善が見られません。市民アンケートにおいても、産業振興における満足度は全体的に低くなっています。

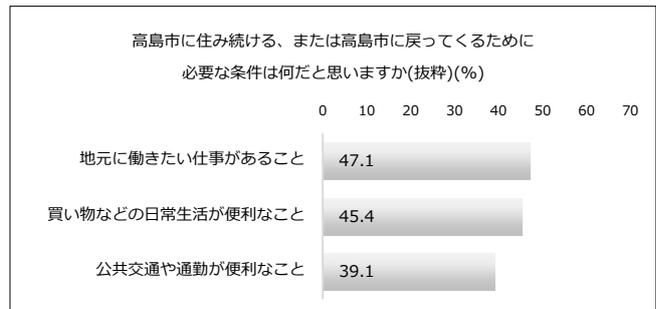
市民アンケートにおいて、高島市に住み続ける、または高島市に戻ってくるために必要な条件を聞いたところ「地元での雇用の場」が68.7%で最多でした。

また、高校生アンケートにおいても同じ質問をしたところ、市民アンケートと同じく「地元で働きたい仕事があること」が47.1%で最多となっています。

このことから、雇用の確保と担い手の育成に取り組みます。



出典：H27.10 市民アンケート調査(n=924)



出典：H28.1 高校生アンケート調査(n=414)

◆ 政策間連携の視点

人口減少社会が到来する中で、子どもたちに高島市で営まれている仕事を知る機会を提供することは、未来の雇用を生む大切な働きかけです。また、雇用を高齢期の生きがいつくりや健康づくりにつなげる取り組みも求められます。さらに、創業や企業誘致のための環境整備として、交通アクセスの向上が求められます。

第2章
「あゆむ」子育て・教育

- ✓ 小学校の地域学習や中学校の職場体験との連携
- ✓ 高校へのキャリア教育との連携

第3章
「つむぐ」健康・福祉

- ✓ 高齢者の雇用促進や培ってきた技術や知識の継承
- ✓ 障がい者の雇用促進

第4章
「せせらく」暮らし・文化

- ✓ 雇用の確保による定住・移住の環境の充実
- ✓ 女性が働きやすい労働環境の構築
- ✓ 第1次産業の維持・振興による住環境や高島らしい自然景観の保全

第5章
「ささえる」生活基盤

- ✓ 創業や企業誘致のための物流や交通アクセスの向上



◆ 市民協働の視点

第2次高島市総合計画の策定にあたり実施した、市民ワークショップや市民アンケート調査、団体ヒアリングなどの意見を、施策の推進にあたっての「市民協働の視点」としてまとめました。

個人でできること

- ◆ 様々な人と連携を図る
- ◆ きれいな水を知る、環境を大切にする
- ◆ 森林の様子や林業の現状を知り、知人にPRする
- ◆ 農業の新たなかたちを追求する
- ◆ 地産地消をさらにすすめる
- ◆ 休耕田の活用を考える
- ◆ 個人が持っている技能を後継者に引き継ぐ
- ◆ ビジネスモデルをつくる
- ◆ 収益性の高い作物を栽培する
- ◆ 高島の魚を食べる

地域でできること

- ◆ かばた文化や棚田等、現在活用できているものを若者達に引き継ぐ
- ◆ 集落営農の農業法人化
- ◆ 地域で植林から加工まで体験する場を提供する
- ◆ 地域として休耕田などを利用してレンゲを植えるなど観光としての利用も考える
- ◆ ITを利用した販売を試みる

施策項目
1

方針 1 企業支援や産業連携を推進し雇用を確保します

現状

- 市内の事業所数は、平成21年は3,116事業所でしたが、平成26年は2,876事業所と約7.7%減少しています。

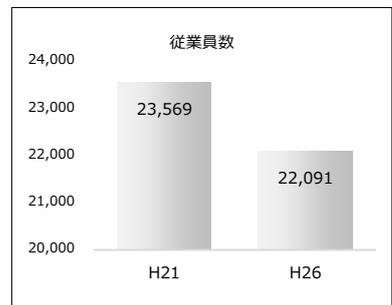
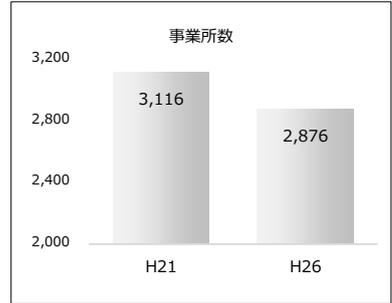
*出典：高島市統計書

- 市内の従業員数は、平成21年は2万3,569人でしたが、平成26年は2万2,091人と約6.2%減少しています。

*出典：高島市統計書

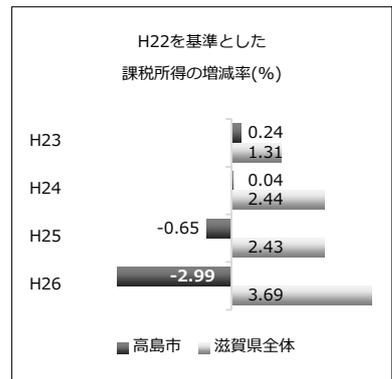
- 平成22年を基準とした課税所得の増減率は、滋賀県全体が増加傾向にあるのに対し、高島市は減少傾向にあります。

*出典：市町村税課税状況等の調から市作成



課題

- 市内企業の経営安定化を図るとともに、事業拡大や2次創業などを支援し、雇用を生み出す環境を整える必要があります。
- 待遇改善や女性が働きやすい労働環境の改善などに取り組み、働きたいと思える魅力を高める必要があります。
- 新たな雇用と定住人口の増加を図るため、高島の魅力を活かせる企業を誘致する必要があります。
- 教育機関と連携し、企業の魅力や働く人の想いやこだわりなどを伝えていく必要があります。



1 基盤整備の支援による企業経営安定化

基盤整備や競争力向上のための取り組みを支援し、市内企業・事業所の経営安定化を図ります。

主な取り組み内容

- ・ 設備投資への支援
- ・ 雇用対策への支援

めざす姿 市内の事業所数（経済センサス）

現状(H26)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
2,876事業所			2,880事業所		→					→

関連個別計画

実行部門 商工観光部

連携施策

P.2-18,19 学校教育

P.2-20,21 キャリア教育

2 産業連携等による地域経済の活性化

産業連携等競争力強化のための取り組みを支援し、地域経済の活性化を図ります。

主な取り組み内容

- ・ 新商品研究開発支援
- ・ 観光物産プラザの運営
- ◆ 実践型雇用創造事業

めざす姿 高島地域雇用創造事業による雇用創出者数（累計）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
66人		142人			↑					↑

関連個別計画 ◆まち・ひと・しごと創生総合戦略、創業支援事業計画

実行部門 商工観光部

3 創業支援制度の構築による創業の推進

創業支援体制を構築し、新規創業や新規事業の立ち上げを推進します。

主な取り組み内容

- ◆ 創業支援事業
- ◆ 高齢者雇用／ソーシャルファーム支援事業
- ◆ 女性活躍支援事業

めざす姿 創業件数（累計）

現状 (なし)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
			40件		↑					↑

関連個別計画 ◆まち・ひと・しごと創生総合戦略、創業支援事業計画

実行部門 商工観光部

連携施策 P.3-10,11 高齢者雇用 P.3-12,13 障がい者雇用 P.4-8,9 女性活躍

4 企業誘致による新規雇用の確保

新規立地に向けた支援制度を構築し、企業の誘致による新規雇用の確保を図ります。

主な取り組み内容

- ◆ 企業誘致推進事業

めざす姿 市外企業の新規立地件数（企業誘致条例に定める指定企業の累計）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
1社					7社					12社

関連個別計画 ◆まち・ひと・しごと創生総合戦略

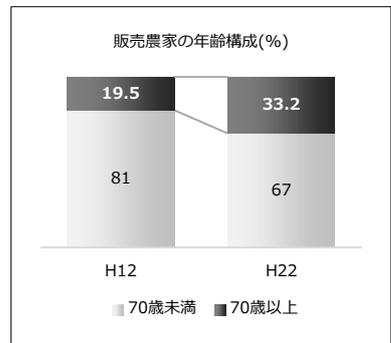
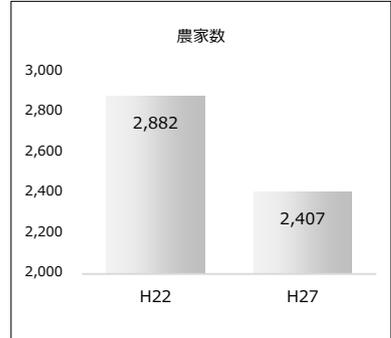
実行部門 商工観光部

施策項目
1

方針2 農業の担い手を育成し農地の維持に努めます

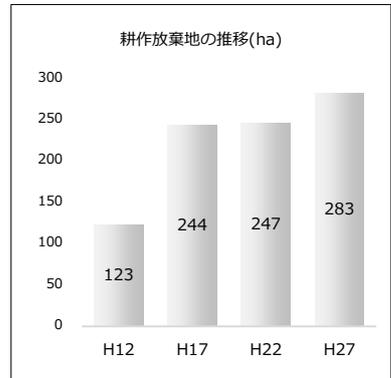
現状

- 平成22年に2,882戸であった農家数は、平成27年で2,407戸と減少傾向にあります。 *出典：農業センサス等
- 認定農業者は、国の制度変更などの影響で、平成23年に183人でしたが、平成27年には552人に増加しました。
- 平成22年の年齢別販売農家数は、70歳以上の割合が33.2%を占め、平成12年度と比較して約13.7%増加しています。 *出典：市調査
- 耕作放棄地は平成22年は247ha、平成27年は283haと増加傾向にあり、従事者の高齢化などによりさらに増加することが見込まれます。 *出典：農業センサス、農林業センサス、世界農林業センサス
- 鳥獣害の被害額は、平成22年に7,609万円でしたが、平成27年は4,102万円と減少傾向にあります。 *市調査



課題

- 農業の振興はもちろん、高島らしい自然景観の保全や豊かな恵みを生み出す環境を維持するため、農業従事者の従事意欲を高める必要があります。
- 農業の持続性を確保するため、若者や女性による就農・従事を支援する必要があります。
- 今後の農地のあり方について長期的なビジョンを検討し、その姿をめざした農業政策を進める必要があります。



1 農業用施設の維持管理による農地の保全

老朽化した農業用施設の機能診断や維持・補修の支援を行い、就農基盤を維持するとともに社会性を踏まえた農地の保全を行います。

主な取り組み内容

- ・ 農業生産基盤の整備
- ・ 土地改良事業への支援
- ・ 農業用施設の長寿命化

めざす姿 担い手農家における経営面積（農家台帳）

現状(H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
2,187 ha					2,455 ha					2,725 ha

関連個別計画 農畜産業・水産業振興戦略プラン

実行部門 農林水産部

2 農地の多面的な機能の維持

地域による農地の保全管理の取り組みを推進し、田園の有する生物多様性や防災機能および自然景観などの多面的機能を維持します。

主な取り組み内容

- ・ 地域で取り組む農地維持活動の推進
- ・ 地域の景観としての農地維持

めざす姿 農地維持に関する地域協定の面積(年度実績)

現状(H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
3,617 ha					3,725 ha					3,825 ha

関連個別計画 農畜産業・水産業振興戦略プラン

実行部門 農林水産部

連携施策 P.4-12,13 水環境 P.4-16,17 防災

3 農地集積による経営の安定化

農地集積の取り組みや鳥獣害対策などを行い、営農環境を維持することで経営の安定化を図ります。

主な取り組み内容

- ・ 農地集積の促進
- ・ 農地中間管理事業の活用
- ・ 鳥獣害対策の推進

めざす姿 担い手農家における経営面積(農家台帳)

現状(H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
2,187 ha					2,455 ha					2,725 ha

関連個別計画 農畜産業・水産業振興戦略プラン

実行部門 農林水産部

連携施策 P.4-12,13 水環境 P.4-18,19 住環境

4 就農相談等による新規就農者の育成

就農相談や農業体験・講習会など農業技術の習得を支援し、新規就農者の育成を行います。

主な取り組み内容

- ・ 新規就農者育成支援
- ・ 経営体の支援

めざす姿 認定新規就農者数(市調査)

現状(H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
15人					35人					50人

関連個別計画 農畜産業・水産業振興戦略プラン

実行部門 農林水産部

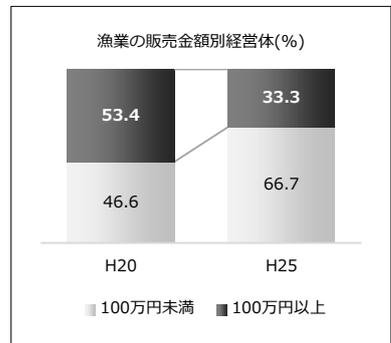
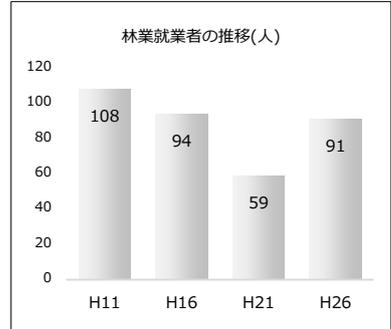
連携施策 P.2-20,21 キャリア教育 P.3-12,13 高齢者雇用 P.4-8,9 女性活躍

施策項目
1

方針3 林業・水産業・畜産業の担い手を育成します

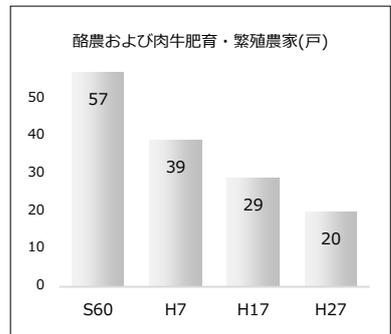
現状

- 林業就業者は、平成16年以降100名を割り込み、減少傾向にあります。 *出典：滋賀県森林・林業統計要覧
- 漁業組合の組合員数は、平成23年度は436名、平成26年度は426名と概ね横ばいの傾向です。 *出典：市調査
- 漁業における販売額別経営体数自体は横ばいですが、100万円以上の経営体が減少しています。 *出典：漁業センサス
- 市内の酪農および肉牛肥育・肉牛繁殖農家は、昭和60年に57戸でしたが、平成7年に39戸、平成17年に29戸、平成27年に20戸と減少しています。 *出典：滋賀県家畜飼養状況調査
- 肉牛肥育は大規模化が進んでおり、平成27年2月1日現在の平均飼育頭数は660頭となっています。 *出典：滋賀県家畜飼養状況調査



課題

- 林業経営の安定と自然環境の保全を両立するため、望ましい森林の姿を検討するとともに、木材生産と保全管理を柱とする中長期計画を作成する必要があります。
- 社会性や環境性を持つ森林の多面的な機能を維持・継承するため、森林に対する関心を高めるとともに、安定した生産体制の構築により担い手の育成を図る必要があります。
- 琵琶湖の資源を守るとともに、伝統漁法など暮らしの文化の保全のためにも、漁業経営の強化を図り未来に継承していく必要があります。
- 近江牛としてのブランド力をさらに活用するとともに、高島産の付加価値を高める必要があります。



1 情報集積および業種連携による林業振興

木材生産と保全を柱とする中長期計画を作成するとともに、森林情報と境界に関する情報を集積し、森林整備を推進しやすい体制を確保します。

主な取り組み内容

- ・ 高島らしい森のあり方検討
- ・ 森林境界の明確化
- ・ 森林台帳の整備
- ・ 造林の推進
- ・ 林道等の整備

めざす姿 林業従事者数（滋賀県森林・林業統計要覧）

現状(H26)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
91人					100人					120人

関連個別計画

実行部門 農林水産部

2 水産業の基盤整備による経営の安定化

水産業施設を適切に維持管理するとともに、鳥獣害防止や生物資源の保全活動を支援し、安定した漁獲量を確保するとともに経営の安定化を図ります。

主な取り組み内容

- ・ 漁港の管理
- ・ 鳥獣害の対策
- ・ 稚魚放流などによる資源保全
- ◆ 琵琶湖淡水魚種苗養殖事業

めざす姿

漁業従事者数（市調査）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
426 人					430 人					430 人

関連個別計画

◆まち・ひと・しごと総合創生戦略、農畜産業・水産業振興戦略プラン

実行部門

農林水産部

連携施策

P.4-12,13 水環境

P.4-18,19 住環境

3 耕種農家との連携による畜産振興

酪農および肉牛肥育・肉牛繁殖農家の飼料の地域内流通を促進し、耕種農家の安定的な経営と畜産業の振興を図るとともに高鳥産としての付加価値を高めます。

主な取り組み内容

- ・ 飼料の地域内生産の推進
- ・ 畜産、酪農の収益力の向上

めざす姿

地域内飼養頭数（市調査）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
3,978 頭					4,814 頭					4,814 頭

関連個別計画

農畜産業・水産業振興戦略プラン

実行部門

農林水産部

連携施策

P.4-12,13 水環境

P.4-18,19 住環境



森林施業の様子

施策項目

2

高島ブランドを育成・発信します

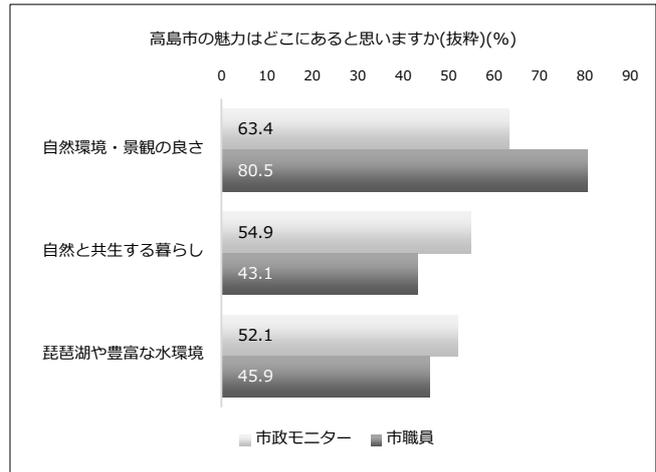
◆ 基本的な考え方

第1次高島市総合計画においては、地域ブランドの確立や第1次産業の経営の強化などに取り組んできました。市民アンケートにおける農林水産業に関する質問項目の満足度は概ね50%程度となっています。

市政モニターや職員アンケートにおいて、高島市の魅力を聞いたところ「自然環境・景観の良さ」「自然と共生する暮らし」「琵琶湖や豊富な水環境」の回答が多数を占めました。しかしながら、この自然環境は耕作や施業など適切な管理の上に成り立つものです。

また、全国シェアトップクラスを誇る扇骨や高島ちぢみなどの伝統的な地場産業についても、高島だけでなく日本の宝として、未来へ引き継ぐ必要があります。

このことから、魅力的なものづくりと積極的なPRを推進することで、高島ブランドの育成に取り組めます。



出典：H28.3 市政モニターアンケート調査(n=71)
H28.3 市職員アンケート調査(n=364)

◆ 政策間連携の視点

高島市には豊かな恵みを生み出す自然があり、それらは良質な自然景観として私たちや観光客を癒すとともに、多様な生物が共生する命のゆりかごでもあります。これらは生業が営まれてこそ守られるものであり、この生業をより確かなものにするために、我々市民がもっとその魅力を知り安全性を享受するとともに、観光面とのタイアップなどを通じて「恵み」の魅力さをさらに高める必要があります。

第2章
「あゆむ」子育て・教育

- ✓ 乳幼児保育・教育、小・中学校、高校キャリア教育の中での体験活動との連携
- ✓ 学校給食への高島産食材の積極的な活用

第3章
「つむぐ」健康・福祉

- ✓ 高島産食材を活用した食育の推進

第4章
「せせらく」暮らし・文化

- ✓ 就農環境の整備による定住・移住環境の整備
- ✓ 第1次産業の維持・振興による住環境や高島らしい自然景観の保全



◆ 市民協働の視点

第2次高島市総合計画の策定にあたり実施した、市民ワークショップや市民アンケート調査、団体ヒアリングなどの意見を、施策の推進にあたっての「市民協働の視点」としてまとめました。

個人でできること

- ◆ 市外から来た知人などに高島産食材を提供したり贈り物にしたりしてPRする
- ◆ 地元のものを知り、優先的に購入し、食べることで地産地消を進める
- ◆ 地産地消が進んでいることをSNSで情報拡散する
- ◆ 道の駅などに規格外商品を置かせてもらうように交渉する
- ◆ 品質の高い作物を生産する

地域でできること

- ◆ 学校給食や大型施設の食堂などで高島市の食材使用を呼びかける
- ◆ 訪れた人が立ち寄って買い物や体験ができるような場所を増やす
- ◆ 規格外の野菜等を販売するアンテナショップのような場所を作る
- ◆ 集団営農で特産品の開発をする
- ◆ 地元の食材を食べる会を設ける



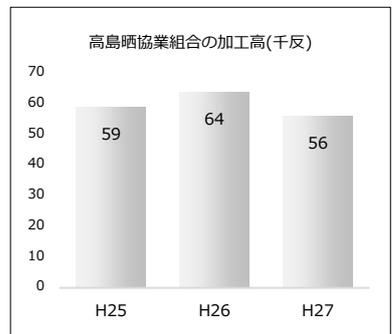
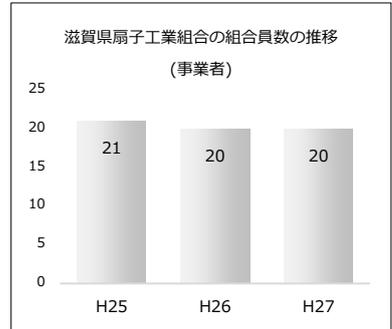
田園風景

施策項目
2

方針 **1** 地場産業の魅力をさらに高めます

現状

- 高島扇骨の平成27年の売上高は3億5,000万円～4億円、加工本数は100万本を下回る程度となっています。また、滋賀県扇子工業協同組合の組合員数は平成27年で20事業者となっています。
- 高島扇骨は、国産扇子の約90%のシェアを誇っており全国1位です。
- 高島晒協業組合の加工高は、平成27年で5万6千反となっています。
- 高島ちぢみは、国内クレープ（楊柳）生産シェアで全国トップクラスです。
- まち・ひと・しごと創生総合戦略事業において、高島ちぢみ、高島帆布の海外への販路確保をめざし、インドネシア、マレーシア、台湾において市場調査や取引を支援しています。



課題

- 地場産業の維持・発展のため、安定的な経営を担保するとともに、さらなる魅力を生み出す必要があります。
- 地元産材を積極的に使用するなど、商品の魅力を高める必要があります。
- 国内や海外への販路を拡大するため、観光などとタイアップした地場産業のPRを行う必要があります。

1 新商品開発等による地場産業の振興

新商品や新技術の研究開発や情報発信・地元産材の利用などの取り組みを支援し、地場製品のブランド力を高めるとともに地場産業の振興を図ります。

主な取り組み内容

- ・ 新商品や新技術の開発支援
- ・ 地元産材の利用に対する支援
- ・ 市外企業や教育機関、研究機関との連携推進

めざす姿

高島ちぢみのラベル*販売枚数（年度実績） *地域団体商標「高島ちぢみ」の基準を満たしたラベル

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
99万枚					180万枚					250万枚

関連個別計画

実行部門 商工観光部

2 国内・海外への進出支援による販路拡大

観光面も意識した国内展示会への出展やアジアを主とした海外進出への支援を行い、新たな販路を確保するとともに地場産品の魅力を高めます。

主な取り組み内容

- ・ 物産展の開催
- ・ 海外展開への支援
- ◆ 特産品海外販売戦略事業

めざす姿

海外向け高島ちぢみのラベル販売枚数（年度実績）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
0.2 万枚					3 万枚					5 万枚

関連個別計画

◆まち・ひと・しごと創生総合戦略

実行部門

商工観光部



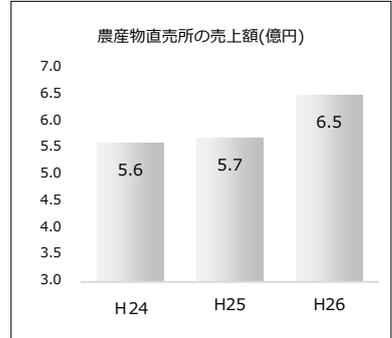
特産品海外販売戦略事業

施策項目
2

方針 **2** 自然の恵みの魅力をさらに高めます

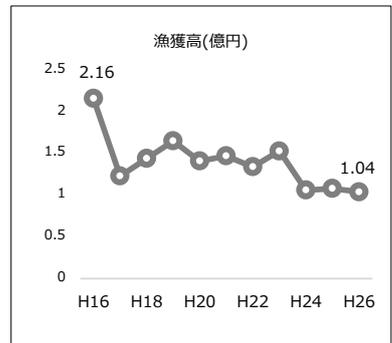
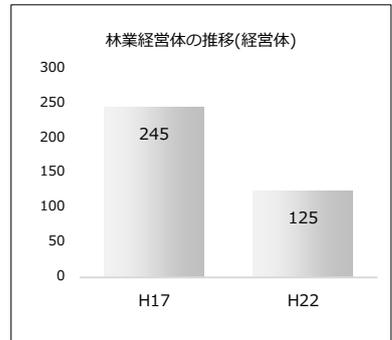
現状

- 農産物直売所の売り上げは、平成24年は5億6,646万円、平成26年は6億5,480万円と増加傾向にあります。 *出典：市調査
- 米作については、国の生産調整の仕組みが廃止されることが決まっており、農業政策の大きな転換期を迎えます。
- 林業経営体数は、平成17年は245経営体でしたが、平成22年は125経営体に減少しています。 *出典：農林業センサス
- 市内漁業の漁獲高は、平成16年をピークに減少しています。 *出典：市調査



課題

- 「高島産」農産物の生産拡大と魅力を高める仕組みを構築する必要があります。
- 栽培方法にこだわって生産された農産物を差別化する取り組みを進める必要があります。
- 地元での消費を高めるとともに、安定した販売体制を構築する必要があります。
- 生産調整の仕組みが廃止されるため、食用米以外での農地活用を進める必要があります。
- 農林水産物を活用した新たな商品づくりによる経営安定化を図る必要があります。



1 生産力向上による農産物の生産・販路拡大

市内の生産者に、農産物の生産販売力を高める仕組みを提供するとともに消費者に周知を行い、農産品の安定供給や生産拡大・認知度向上を図ります。

主な取り組み内容

- ・ 農産ブランド認証制度
- ・ たかしま野菜の生産振興
- ・ 6次産業化の促進

めざす姿 市内主要直売所における農産品の売り上げ実績額（市調査）

現状(H26)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
285 百万円					401 百万円					421 百万円

関連個別計画 農畜産業・水産業振興戦略プラン

実行部門 農林水産部

2 新規特産品の開発による林産品の魅力向上

森林の持つ多面的機能を活用しながら、木材産業の関連事業を集積化し、相互の連携を図るとともに、新しい林産品の開発などで林産品の魅力の向上を図ります。

主な取り組み内容

- ・ 森林セラピーの推進
- ・ 菌床キノコの栽培
- ・ 高島産木材の活用

めざす姿 高島産材の活用量（補助事業の年度実績）

現状 (H25)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
222 ㎡					260 ㎡					300 ㎡

関連個別計画 農畜産業・水産業振興戦略プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略

実行部門 農林水産部

連携施策 P.2-16,17 乳幼児食育 P.2-18,19 学校給食 P.2-20,21 キャリア教育

3 水産品の魅力化による食材利用の推進

新たな手法による養殖の実践を支援するとともに、新たな食べ方を提案することにより水産資源の保全と活用を進め、食材としての湖魚の定着を図ります。

主な取り組み内容

- ・ さまざまな機会をとらえた湖魚の食材としての利用の啓発
- ◆ 琵琶湖淡水魚種苗養殖事業

めざす姿 市内漁業組合の漁獲高（年度実績）

現状 (H25)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
104 百万円					120 百万円					150 百万円

関連個別計画 ◆まち・ひと・しごと創生総合戦略、農畜産業・水産業振興戦略プラン

実行部門 農林水産部

連携施策 P.2-16,17 乳幼児食育 P.2-18,19 学校給食 P.2-20,21 キャリア教育 P.3-8,9 食育



高島ブランド認定農産物

施策項目
2

方針3 「発酵」を活かしたオリジナルブランドを育成します

現状

- 高島市内には、造り酒屋が5事業者あります。
- 醤油や酢を製造している事業者があります。
- 鮎ずしや鯖のなれずし、自家製味噌など、発酵を使った日本の伝統的な食文化が家庭にも残っています。
- 近年、発酵食品の効能に対する注目度が高まっています。
- 高島市には3か所の重要文化的景観や高島しぐれと呼ばれる降雨に代表されるように、琵琶湖や湧水、河川など豊かな水環境が特色です。



平成25年に開催した発酵サミットの様子

課題

- 高島の地域特性が生んだ伝統食である「発酵」を活かした、高島ならではの魅力開発を進める必要があります。
- 「発酵」の効能などを積極的に研究するとともに、活用方法を情報発信することで、高島市の魅力を伝えていく必要があります。

1 発酵研究の推進による魅力向上

発酵を研究する施設の誘致や新商品の開発、販売戦略を支援し、高島市の発酵食品の魅力を高め販路を拡大します。

主な取り組み内容

- ・ 発酵食品を活かした商品開発支援
- ・ 発酵食品の販売戦略の支援
- ◆ 高島発酵研究事業

めざす姿

発酵食品に関連した商品開発数（年度実績）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
0 商品					10 商品					20 商品

関連個別計画

◆まち・ひと・しごと創生総合戦略

実行部門

商工観光部

2 発酵商品開発による農畜産物の生産拡大

発酵を切り口にした新商品の開発を支援するとともに百貨店等での販路を確保し、農畜産物の生産拡大・認知度向上を図ります。

主な取り組み内容

- ・ 農畜産物と発酵の連携
- ・ 発酵を活かした新商品開発の支援
- ◆ 特産品国内販売戦略事業

めざす姿

独自ブランドによる農畜産物の試験販売店舗数（累計）

現状 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
0 店舗			2 店舗							3 店舗

関連個別計画

◆まち・ひと・しごと創生総合戦略

実行部門

農林水産部



平成25年に開催した発酵サミットの様子

施策項目

3

観光で国内・海外に「高島」を伝えます

◆ 基本的な考え方

第1次高島市総合計画において、主要プロジェクトとして、エコツーリズムに取り組んできました。その結果、日帰り客数は平成26年には4,177,500人まで増加しました。しかし、宿泊客数は平成26年時点で370,200人となっており、目標に掲げた平成28年時点で600,000人の実現は困難となっています。

しかしながら、高島市は重要文化的景観に全国唯一*同じ自治体から3か所が選定され、白鬚神社、シコブチ信仰とともに日本遺産の構成要素となるなど、魅力的な文化財が存在します。また、全国から選定されるさまざまな百選に15か所*が選ばれるなど、豊かな自然に囲まれています。 *平成28年7月時点

このように、高島市の観光資源が潜在的に持つ力は非常に高いと言えます。自然はもちろん、暮らしや食、人の魅力を掛け合わせて、滞在時間の延伸につながる観光の振興に取り組みます。



出典：滋賀県観光入込客統計調査

◆ 政策間連携の視点

ただそこにある自然を見るというだけでは、滞在時間の延伸につながりません。食や暮らしなどとのタイアップを積極的に推進するとともに、プログラムの充実や周遊性の向上などが必要です。また、時には生活圏に入り込むことも想定されることから、受け入れ体制の整備や市民による観光ガイドの育成なども必要です。さらに、観光をシティプロモーションと位置づけ、空き家施策などと連携し、最終的に移住につながる仕組みも必要です。

第2章

「あゆむ」子育て・教育

- ✓ 地域学習による価値の再発見と郷土愛着の育成
- ✓ 国際理解の推進による受け入れ体制の構築

第3章

「つむぐ」健康・福祉

- ✓ 観光ガイドや講師など高齢者の技術や知識を活かした生きがいづくり

第4章

「せせらく」暮らし・文化

- ✓ 体験宿泊や拠点施設としての空き家の活用
- ✓ 観光から移住の意欲につながる情報発信や体験機会の創出

第5章

「ささえる」暮らし・文化

- ✓ 市外からの道路・鉄道の交通アクセスの向上
- ✓ 2次アクセスの充実による周遊性の向上



◆ 市民協働の視点

第2次高島市総合計画の策定にあたり実施した、市民ワークショップや市民アンケート調査、団体ヒアリングなどの意見を、施策の推進にあたっての「市民協働の視点」としてまとめました。

個人でできること

- ◆ 自分自身が観光地や自然環境など高島の魅力を知る
- ◆ 知人・友人に高島の魅力を紹介する
- ◆ SNSなどを活用して高島の魅力を発信する
- ◆ ガイドやイベントにボランティアで協力する
- ◆ 様々な人と連携を図る
- ◆ 環境を大切にする
- ◆ 市などからの情報発信を受け取る努力をする

地域でできること

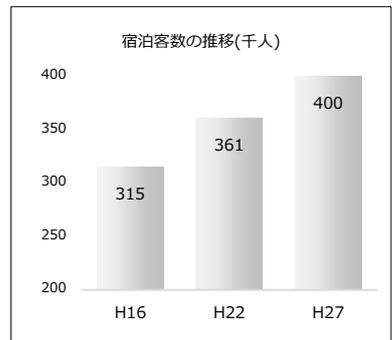
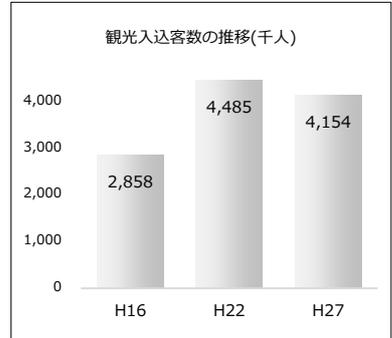
- ◆ 清掃活動などを行い景観を守る
- ◆ 観光地での行事を活発に行う
- ◆ 地域で勉強会や情報交換をする
- ◆ かばた文化や棚田など受け継いできたものを若者に引き継ぐ
- ◆ 市内観光地の地域間で連携する
- ◆ 地域で電車やバスを活用したコースを考える
- ◆ 観光地周辺の地域を活性化させる
- ◆ 休耕田などを観光面に活用する

施策項目
3

方針 1 豊かな自然や恵みを活かした観光を推進します

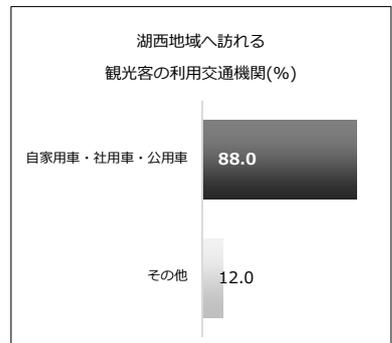
現状

- 高島市の観光入込客数は、平成16年に2,858,600人、平成22年に4,485,200人、平成27年に4,154,700人と近年は横ばいとなっています。
*出典：滋賀県観光入込客統計調査、H27は市調査
- 宿泊客数は、平成16年に315,600人、平成22年に361,900人、平成27年に400,000人と増加傾向にあります。
*出典：滋賀県観光入込客統計調査、H27は市調査
- 滋賀県観光動態調査によると、湖西地域へ訪れる観光客の利用交通機関については、公共交通機関の利用が少ない傾向にあります。
- ビワイチと呼ばれる琵琶湖1周サイクリングにより、多数の観光客が高島市を訪れています。



課題

- 市内の観光資源をつなぎ、食や人を結ぶ観光プログラムを提供する必要があります。
- 公共交通機関を利用した交通アクセスを改善する必要があります。
- 外国人観光客を迎えるための施設や人材など環境の整備を行う必要があります。



1 観光プログラムの充実による観光客の増加

日本遺産をはじめ、高島の魅力である「自然」や「暮らし」を活用した観光プログラムの開発やルートの構築に対する取り組みを支援し、観光の魅力を高めます。

主な取り組み内容

- ・ 観光プログラムの開発
- ・ 観光ルートの構築
- ・ 観光ガイドの養成
- ・ 広域的な観光連携の推進
- ◆ 高島トレイル魅力発信事業
- ◆ 重要文化的景観を活かした観光振興事業

めざす姿 観光入込客数（滋賀県観光入込客統計調査）

現状(H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
4,154千人			4,400千人		4,500千人					5,000千人

関連個別計画 ◆まち・ひと・しごと創生総合戦略

実行部門 商工観光部

2 周遊性の向上による滞在時間の延伸

観光施設の魅力向上や2次アクセスの利便性確保による周遊性の向上・観光イベントの開催支援を行い、観光客の滞在時間を延伸します。

主な取り組み内容

- 観光施設の運営
- 2次アクセス対策
- 観光イベントの開催支援

めざす姿

高島市での宿泊客数（滋賀県観光入込客統計調査）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
400 千人					450 千人					500 千人

関連個別計画

実行部門 商工観光部

連携施策 P.5-14,15 公共交通

3 自然と食を活かした観光の魅力向上

高島産の農畜産物や湖魚・発酵食品などの提供機会を増やし自然と食を結ぶことで、観光の魅力をさらに高めま

す。

主な取り組み内容

- 農業公園施設の運営
- 宿泊施設や飲食店と連携した高島産食材の提供

めざす姿

観光入込客数（滋賀県観光入込客数統計調査）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
4,154 千人			4,400 千人		4,500 千人					5,000 千人

関連個別計画

農畜産業・水産業振興戦略プラン

実行部門 農林水産部



日本遺産構成文化財である白鬚神社

施策項目
3

方針 **2** 高島の魅力を国内・海外に発信します

現状

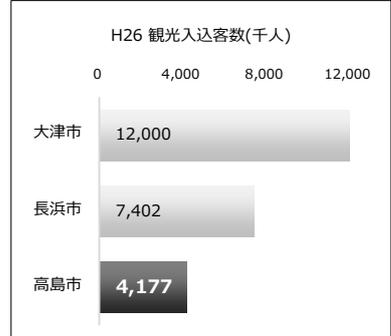
- 平成26年の観光入込客数は4,177,500人で県内でも上位です。外国人宿泊客数は1,924人と他市に比べて低くなっていますが、平成27年は3,669人と増加傾向にあります。
*出典：滋賀県観光入込客統計調査、H27は市調査

- びわ湖高島ブランド戦略推進事業で行ったウェブ調査*では、高島市に近いほど知名度が高く、離れるにしたがって低くなる傾向があります。
*東京圏300サンプル、名古屋圏300サンプル、関西圏300サンプルで調査

- 世界的なスポーツイベント「Wings for Life World Run」の日本開催地となるなど、海外・市外から参加率が高いスポーツイベントを誘致・開催しています。

課題

- 高島市の認知度を向上させ、全国から注目されるまちになる必要があります。
- 京都・大阪に訪れる外国人観光客に対し、高島の魅力をアピールする必要があります。
- 観光はもちろん移住につなげていくためにも、高島市のことを伝える機会を持つ必要があります。
- 地域の人が高島市の良さを認識し、国内外に発信する必要があります。



1 情報発信の強化による集客力の向上

メディアやインターネットなどの情報ツールを用いた情報発信を強化し、高島市の認知度の向上と集客力の向上を図ります。

主な取り組み内容

- ・ 観光情報の発信
- ◆ びわ湖高島ブランド戦略推進事業
- ◆ 高島サステナブル・オフィス事業

めざす姿

観光入込客数（滋賀県観光入込客統計調査）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
4,154 千人			4,400 千人		4,500 千人					5,000 千人

関連個別計画

◆まち・ひと・しごと創生総合戦略

実行部門

政策部

2 海外向けの情報発信による観光客の誘致

外国語パンフレットの作成や情報ツールを活用した海外向けの情報発信を行い、外国人観光客の誘客を図ります。

主な取り組み内容

- ◆ インバウンド誘客促進事業

めざす姿

観光入込客数のうち外国人宿泊客数（滋賀県観光入込客統計調査）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
3,669 人			5,000 人		↑					↑

関連個別計画

◆まち・ひと・しごと創生総合戦略

実行部門

商工観光部

3 国際理解の推進による受け入れ体制の整備

国際理解のための講座や研修ガイドの養成、通信環境の整備などを行い、外国人観光客の受け入れ体制を整えます。

主な取り組み内容

- ・ 講座や研修によるガイドの養成
- ◆ インバウンド誘客促進事業

めざす姿

観光入込客数のうち外国人宿泊客数（滋賀県観光入込客統計調査）

現状 (H27)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
3,669 人			5,000 人		↑					↑

関連個別計画

◆まち・ひと・しごと創生総合戦略

実行部門

商工観光部

連携施策

P.2-18,19 学校教育

P.4-8,9 人権教育

4 スポーツイベントによる観光と地域振興

自然を活かした全国的・国際的なスポーツイベントの誘致・開催により、高島市の認知度向上と観光誘客を図ります。

主な取り組み内容

- ・ 国際的なスポーツ大会の誘致
- ・ 全国規模のスポーツ大会の誘致、開催
- ◆ インバウンド誘客促進事業

めざす姿

国際的および全国的なスポーツイベントの参加者数（年度実績）

現状 (H25)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
2,747 人					10,000 人					↑

関連個別計画

◆まち・ひと・しごと創生総合戦略、教育大綱、スポーツ推進計画

実行部門

教育総務部

連携施策

P.4-6,7 定住移住

第8回たかしま子ども美術展「みらいのたかしま～わたしがおとなになったとき」市長賞受賞作品



「みんなにここに楽しい町」安曇川はこぶね保育園4歳児／梅野冴花さん